

ひと足お先に
愛媛暮らしを
愉しんでいます。

私の移住体験談

愛媛に惹かれ、実際に移住を決断した先輩たちの体験談を紹介します。
海、島、山、街と、さまざまなシーンで営まれる、
十人十色の暮らしぶりがみられます。



島暮らし

音楽と農業で地域を結ぶ NPO農音の発起人

たなか ゆうき
田中 佑樹さん
【中予エリア】松山市中島地区在住

前列中央が田中さん



三津浜港からフェリーに揺られること1時間あまり。松山沖の瀬戸内海に浮かぶ中島は、島全域に柑橘畑が広がるミカンの島。深刻な高齢化が進むこの離島に、柑橘栽培と音楽活動を行いながら、

- 【移住までの道のり】
- 移住歴
2011年7月、東京から松山市中島にUターン
 - 移住のきっかけ
都会の暮らしに疲れている若者たちが、ハッピーに暮らせる集団移住のアイデアを思いついたこと
 - この場所を選んだ理由
農業で生活できる土地で、妻の祖父母ががって暮らしていた家がずっと空き家になっていたから

ハッピーな島暮らしを目指す「NPO農音(のうおん)」の若者たちが都会から次々と移住し、地域活性化に一役買っている。

農音は、首都圏で活動していたバンドマンたちが中心となって、2011年に発足。ストレスフルな都市部での生活に疑問を感じ始めた若者たちが、過疎化の進んだ地域に集団移住して地域を活性化しようと、現在、東京と中島に暮らし約40名のメンバーが参加している。

2011年夏、田中さんとバンド仲間の大友さんが中島へ先発隊として移住し、地元の主力産業である柑橘栽培や加工業に従事しながら、後発隊が移住するために必要な住まいや、農地の確保のサポートを開始。わずか3年で16世帯25人が中島へと移住した。

農音では、地域活性化の一つとして、「真ん中」ミカンのブランド化にも取り組んでいる。「かつて中島には、『丸中』という高級ブランドがあったのですが、JAの吸収合併で消えてしまった。そこで、地元の人に『丸中』に変わる新たなブランドとして、愛着を持って欲しいとネーミングしました。『真ん中』には、本州と四国を結ぶ瀬戸内海の真ん中の島という意味と、生産者(地方)と消費者(都市部)をつなぐ真ん中という意味も持たせています」

農音の活動は、移住者の支援にとどまらず、島全体を元気にする活動へと活動の輪をどんどんと広げている。

●音楽と農業で地域を結ぶNPO農音 <http://noon-nakajima.com/>



- 1 中島を中心とする忽那諸島。島へ向かう船上からは、瀬戸内の多島美を堪能できる
- 2 田中さんが暮らす家には、ギターやドラムなどベリンクな楽器の他に、珍しい民族楽器も。仲間が集まってセッションを楽しんでいる
- 3 「育たない柑橘はない」とまで言われる中島では、季節に応じて様々な品種が収穫される

愛媛暮らし
アドバイス
田舎への移住は、都会で考えているよりもずっとハードルが低い。農音のような田舎とつながりがあるところを介することで、地域にもスムーズに馴染めます。

街暮らし

料理を通して愛媛の食材の 魅力を発信したい

ひらばやし ともき
平林 知己さん
【中予エリア】松山市三津浜地区在住



松山の海の玄関口として栄えた三津浜は、まるで時間が止まったかのように感じるレトロな港町だ。横浜から三津浜に移住したミュージシャンの知り合いに誘われて、初めて訪れた三津浜の「独特の磁場とおいしい食材」に惹かれて、東京から夫婦で移住し、2013年秋にビストロサンジャック三津浜をオープンした。「三津浜の魅力は、なんと言っても新鮮でおいしい食材が手に入ること。長年、東京でライブも楽しめるビストロを営んでいましたが、2011年の原発事故後、食材の安全性に不安を感じて、移住を決めました。その点、愛媛は、魚はもちろん、野菜も肉も本当においしい」

- 【移住までの道のり】
- 移住歴
2013年9月、東京より松山市三津浜地区へUターン
 - 家族構成 夫婦
 - 移住のきっかけ
2011年の原発事故をきっかけに、東京で飲食店を続けることに不安を感じたこと
 - この場所を選んだ理由
独特の磁場を感じる三津浜の雰囲気と食材の良さ

昔ながらのノスタルジックな商店街に面した店舗は、松山市の三津浜地区にざわい創出事業の一環である「ミツハマル」の町屋バンクを通して紹介を受けた。「もともとカラオケスナックだった空き店舗を、ライブもできるように改装しました。今も、東京時代からの馴染みのミュージシャンがライブに立ち寄ってくれますね」休日には、船でわずか15分ほどの近くの島で、食材調達を兼ねた釣りを楽しむこともあるという。

「店をオープンしてまだ1年ほどですが、こういうご時世ですし、三津浜は松山の郊外で人口もそれほど多くないので、商業的には、正直厳しい部分も。ただ僕は料理人なので、愛媛の食材を生かした料理を通して、なんとか現状を打破していきたい。そんな思いで、店の人気メニューのネット通販にも挑戦しています」

ビストロサンジャックで提供する料理を通して、愛媛の食材の良さを発信する奮闘の日々が続いている。

●ビストロサンジャック三津浜 <http://pomkn.cocolog-nifty.com>



愛媛暮らし
アドバイス
自治体によって移住の支援制度は異なるので、移住前に正しい情報をしっかり確認することが大切ですね。

海暮らし

地域が見守ってくれる 環境でのびのび子育て

はせば ひろし まさこ
長谷波 比呂志さん 昌子さん
【中予エリア】伊予市双海町在住



松山市から南へ約10km。美しい夕日で知られる伊予市双海町の翠小学校は、木造校舎として全国で初めて環境省の「学校エコ改修と環境教育事業」モデル校に選ばれた全校生徒わずか16人の小規模校だ。平成23年度からは「地域のシンボルである学校を守りたい」と校区外通学制度を開始した。

- 【移住までの道のり】
- 移住歴
2012年、大阪府から伊予市市街地のマンションへUターン。翌年、翠小学校校区の伊予市双海町へ再転居した
 - 家族構成
長女の比奈(ひな)ちゃん、長男の真斗(まさと)くん、次女の志帆(しほ)ちゃんと夫婦の5人家族
 - 移住のきっかけ
翠小学校の校区外通学制度
 - この場所を選んだ理由
のびのび子育てできる環境

子どもがのびのび育つ環境を求めていた長谷波さん一家は、昌子さんの実家がある伊予市に帰省時に、たまたま広報で校区外通学制度を知り、夫婦で見学に訪れた。「翠小学校の子ども達は、大人の目を見て元気にあそびしてくれる。子どもの表情が、本当に生き生きしていて、ここしかないなと決めました」ただ、翠小学校の校区内には、不動産業者が取り扱っている空き家がなく、ひとまず伊予市の市街地にマンションを借り、そこからJRで校区外通学を始めた。「主人は、いろいろな人と知り合いになるのが大好きな人で、学校行事にも積極的に参加したかったのですが、校区外通学だと、どうしてもお客さんのような遠慮があったので、「子ども達も放課後、友達とゆっくり遊べないので、やはり校区内に移りたいね」という話が夫婦で交わされるようになり、PTA関係者の協力でみつかった校区内の大きな一軒家へと再転居を果たした。

「都会から、いきなり田舎で空き家を探すのは大変ですが、PTAからの紹介のおかげで、ご近所ともなじみやすかったですね。今では、子どもの登下校時に、地域のお年寄りがわざわざ表に出て見守ってくれています。ご近所のおばあちゃんに『生活にハリが出て長生きできるわ』と言ってもらって、もったいないですね」地域のみなさんに見守られながら、笑顔いっぱいの子育てを楽しんでいる。



愛媛暮らし
アドバイス
自分たちがオープンしていると、地域のみなさんもオープンに接して下さいます。地域に飛び込んでいくにはそれが大切かなと思います。

山暮らし

理想のチーズ作りを 可能にしてくれた内子

こくぶん しげき
國分 茂樹さん
【南予エリア】内子町在住



「木蠟と白壁の町」として知られる内子町の山間部に、理想のチーズ作りの夢を求めてやってきた國分さん夫婦。東京の会社員だった國分さんの転機は、夫婦で訪れたイタリア旅行だった。本場チーズのうまさを作り手の農家の誇りに感動し、理想のチーズを作りたいと脱サラを決心。

- 【移住までの道のり】
- 移住歴
2011年に神奈川県から内子町にUターン
 - 家族構成 夫婦
 - 移住のきっかけ
チーズ工房「醍醐」の共同経営者となる酪農家の山田さんを紹介してもらったこと
 - この場所を選んだ理由
行政の支援体制がしっかりしていた。そして、丘陵地帯の風景や気候が、イタリアに似ていたから

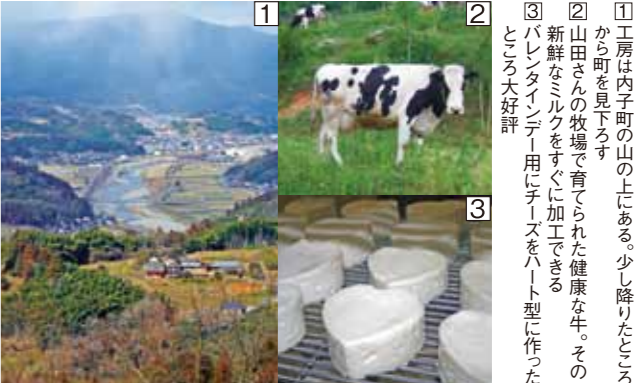
チーズ作りを学ぶかたから、チーズ作りを可能にする場を求めて土地探しをスタート。たまたま内子町役場を訪れた日に、同じくチーズ作りの夢を長年抱いていた酪農家の山田博文さんを紹介された。お互いが信頼に足る存在であると確信した2人は、協力して工房を立ち上げることに。

約1年の準備ののち、2011年4月に國分さんは奥様と内子へやってきた。建築業界に身を置いていた奥様も、ヨーロッパの古建築に触れ、古民家再生に興味を持っていた。古い町並みを残す内子への移住には、奥様の方がむしろ積極的だったとか。

チーズ工房の名「醍醐」は、平安時代に日本で作られていたチーズに似た乳製品のこと。製法はヨーロッパ式でも昔ながらの製法にこだわりたい、という願いをこめて名付けた。完成したカマンベールチーズ「トミー」、フレッシュチーズ「リコッタ」、濃厚な「モッツアレラ」など、ミルクの風味の余韻が楽しめる醍醐のチーズは、道の駅に並ぶとすぐに品切れになる人気商品に成長した。

移住当初は町の研修用施設に住んでいたが、このほど工房のとりに待望の新居が完成。さらに、近々、新製品のチーズのお目見えも予定している。

●チーズ工房「醍醐」 <http://daigocheese.com/index.html>



愛媛暮らし
アドバイス
思うように事が進まなくてもイラつかないことです。愛媛県民の人柄は、おおらかで温かい。素直に助言に耳を傾けて。